

NPOと行政の協働事業自己チェックリスト集計表(農村災害ボランティア団体事業)

所属	三重県土地改良事業団体連合会	三重県農水商工部農業基盤室
名前	吉田、庄村	近藤
視点1 事業実施前に話し合いが十分になされましたか。		
視点1-1 ニーズの把握	はい	はい
視点1-2 ニーズの共有	はい	はい
特記事項	大災害発生時にはライフラインの復旧が最優先され、被災した農地、農業用施設の復旧は二次的に位置づけられる。しかし、農業生産者にとってはいち早い復旧を行い、安定した農業生産、農業経営を取り戻すため、災害復旧の作業の速やかな実施を支援する農業災害ボランティアが自然に活動できる環境を整備する必要が生じた。	平成16年、台風21号によって県内が多大な被害を蒙りました。特に県南部は集中的なダメージを受け、対応に追われた市町は通常業務に復帰するのにかなりの日時を要しました。県職員も査定設計書の作成等復旧作業がいち早く行われるよう応援体制をとりました。そのような中で三重大学の先生からも、一般のボランティアとは違うわれわれの専門に係務することでお手伝いの手法はないものかともお話しいただきました。そこで、農村でうけた災害復旧作業のお手伝いをさせていただく“農村災害ボランティア”組織を立ち上げることとなりました。
視点2 事業の目的や事業に関わる意義を確認していますか。		
視点2-1 事業の公共性と行政関与の妥当性		
広く不特定多数の利益になるものですか	はい	はい
地域課題解決・社会変革に役立つものですか	はい	はい
同じ取り組みが既に行われているか調査しました	はい	はい
視点2-2 協働の妥当性	はい	はい
特記事項	地方公共団体等の行う災害査定事前準備作業を地方公共団体の依頼により無償で協力し、活動を行い、速やかな復旧作業を促進し、県民の福祉を回復することを目的とする。	
視点3 それぞれの役割が明確に整理されていますか		
役割分担	はい	はい
責任分担	はい	はい
情報共有	はい	はい
問題発生時の対応	はい	はい
特記事項	何度も打合せを行い、県と美土里ネットみえが共同し、また、その中に三重大学の協力参画もお願いし事務局を立ち上げることになった。	三重県農村災害ボランティア団体設置要領にて定めています。
視点4 事業を計画的に進めていますか		
事業の目的	はい	はい
地域ビジョンと事業の方向性	いいえ	いいえ
実施計画と収支計画	はい	いいえ
実際にかかる費用分担と予算管理	はい	はい
スケジュール管理と進捗状況	?	?
事業の進捗を客観的に判断する具体的な成果	?	いいえ
成果物の帰属	はい	いいえ
事業完了時期	?	いいえ
事業終了後の方向性の共有	?	いいえ
特記事項	緊急時に対応するボランティアであり、その活動を行うための体制作りである。	特に事業終了時期は決めていません。
視点5 参加・参画の体制づくりは進んでいますか		
視点5-1 当事者性	はい	はい
視点5-2 対話(コミュニケーション)	はい	はい
視点5-3 意思決定	はい	はい
視点5-4 事業実施体制		
役割分担	はい	はい
責任分担	はい	はい
情報共有	はい	はい
問題発生時の対応	はい	はい
特記事項	本年度は事務局の立ち上げと参加者募集までの事業である。	
視点6 事業企画段階で欠けていた視点や、今後必要とされる仕組み、制度等は何でしょうか。		
		<p>今後は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的活動に向けた準備を行う。 ・市町への制度の周知と活用をアピールする。 ・ボランティアのモチベーションを維持する仕掛けが必要。